

最後の日々と時間

科目責任者 Wolfgang Roland Ade
学年・学期 1 学年・2 学期

I. 前 文

生物学的、社会的現象としての「死」は、太古の昔から人々の頭を悩ませてきた。生活環境の向上は長寿をもたらす一方で生活習慣病や悪性腫瘍の発生を増加させた。この講義では、死にまつわる生物学的、疾病学的、人類学的な諸課題－社会的、法的側面も含めて－を取り上げ、「死」という事象に対してより従容たる態度で行動でき、対処できるようになることを意図していること。

II. 担当教員

島 田 宗 洋 (医学部), Wolfgang Roland Ade (医学部)

III. 一般学習目標

医師が一般市民よりも頻繁に直面する「死」に、より容たる態度で向き合い、患者を臨終に際して支え、親族の死別によって湧き上がってきた悲しみの対応できるようになること。

IV. 学修の到達目標

1. 死と死にゆくことに関する正しい情報を提供できるようになること。
2. 患者やその親族に死や死期について話すことができるようになること。
3. 諸文化のさまざまな形態における死の解釈試みおよび死の儀式に関して述べるができること。
4. 死の哲学的側面に関して述べるができること。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担 当 者 | アクティブ ラーニング |
|----|----|----|----|----|--------------------------|------------------------|----------------|
| 1 | 8 | 23 | 水 | 5 | 人生の始まりと終わり | Wolfgang Roland Ade | 1 |
| 2 | | 30 | 水 | 4 | 生物学的・人類学的・哲学敵視点から見た死 | Wolfgang Roland Ade | 1 |
| 3 | 9 | 6 | 水 | 4 | 人類学的・哲学敵視点から見た死 | Wolfgang Roland Ade | 1 |
| 4 | | 13 | 水 | 4 | 緩和医療と自死帮助 | 島 田 宗 洋 | 1 |
| 5 | | 27 | 水 | 4 | 人間の尊厳 | Wolfgang Roland Ade | 1 |
| 6 | 10 | 4 | 水 | 4 | 白死, 非自発的過失致死, 殺人等 | Wolfgang Roland Ade | 1 |
| 7 | | 11 | 水 | 5 | アルフォンス・デーゲンの「死生観・死の準備教育」 | Wolfgang Roland Ade | 1 |

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

期末レポート 50%, ショート・テスト 10%, 出席状況・態度, 講義中の発言 15%, 予習レポート 10%, 復習レポート 15%

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

講義中に必要に応じて配付します。

Ⅷ. 質問への対応方法

講義中いつでもどうぞ。それ以外は事前に日独連携推進室へ予約してください。内線番号は2153。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | | |
|--------------------------|--|---|
| 医学知識 | 人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。 | |
| | 種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。 | |
| 臨床能力 | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。 | |
| | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。 | |
| プロフェッショナリズム | 医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。 | ◎ |
| | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 | ◎ |
| 能動的学修能力 | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。 | |
| | 書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。 | |
| リサーチ・マインド | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。 | ○ |
| | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。 | |
| 社会的視野 | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。 | ○ |
| | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。 | ○ |
| 人間性 | 医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。 | ○ |
| | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。 | ○ |

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

予習及び復習レポートのフィードバックはメールで行います。その他は必要に応じて個別にフィードバックを行います。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：予習ビデオ講義を見る（所要時間の目安：10分）、各学生1回ずつ指定文献を読んで発表を行う（所要時間の目安：90分）

事後学習：授業において関心を抱いた点について、200字程度にまとめる（所要時間の目安：20分）

XII. コアカリ記号・番号

A-1-1) 医の倫理と生命倫理

B-1-6) 社会・環境と健康

B-4-1) 医師に求められる社会性